

InSEA 2017 8.7 - 11 Mon. Fri.

EXCO, DAEGU, KOREA

| Spirit ∞ Art ∞ Digital |

会議テーマ

Home > Congress Theme

テーマ	精神 ∞ 芸術 ∞ デジタル
サブ テーマ	<ul style="list-style-type: none">・ 芸術を通して人間性を育む: 芸術は如何にして人権と持続可能性の意識を高めるか。・ 多様性の描画: 社会に従事した芸術教育は如何に文化の多様性を促進し、コミュニティを強化するか。・ 生活のデジタルスペース: 人類の経験はデジタルワールドの中で如何に変化したか。・ 未来を描く: 芸術教育は如何に第 4 の新時代に備えるか。

確かに言えることが 1 つあるとすれば、それは、この時代に実際それが到来することを誰も拒めないということで、我々はそれを、デジタル現象と言います。デジタルにより始まった前例のない変化の速度と革新の範囲は、容易に推測できません。その分我々の社会は、デジタルと呼ばれる巨大な波に直面し、それは教育も包含しました。多くの国の政府、機関、個人により発せられたポリシーと議題はその例です。実際、我々の学生は誕生の時からその全生活を、コンピューター、スマートフォン、タブレット、インターネット、デジタル音楽プレーヤー、ビデオカムなどのデジタル機器に囲まれ、使用して過ごしたのです。

このことは、我々の学生はデジタル技術に精通しているだけでなく、考え方や学び方も異なっていることを示唆します。プレンスキーがこの世代を「デジタルネイティブ」と言ったように(2001 年)、今日の我々の学生はすべてデジタル言語のネイティブスピーカーであり、私たちのような「デジタル移民」とは非常に異なっているのです。

それでは、芸術クラスについてはどうでしょうか? 我々は、このデジタルネイティブとデジタル環境の壮大な挑戦から無事でいられるのでしょうか? デジタル技術の出現は、美術教育とその実践の細分化を提起しました。新しいパラダイムが来ていると考えられています。この時点において、InSEAでのデジタル問題の取扱は初めてではないし、少しも新しいものではありません。少なくとも 2002 年のニューヨーク会議以来 10 年間デジタル問題は、メディア、新技術、仮想芸術空間などの点から取り扱われてきました。

にもかかわらず我々は、このデジタル問題をトップギアで対処する極度の必要があるということを認めないわけにはいきません。なぜなら社会の隅々や教育におけるデジタルの全的広がりが様々な意味や解釈、可能性、問題、希望、不安などを我々の予測を超えて生み出しつつあるからです。芸術教育とその異常な繋がりの可能性は、どこへ向かうべきなのか? 我々はそういったハイテクを芸術教育における時代の喜びとして受け入れて良いのだろうか? どんな問題や障害物がデジタルによ

InSEA 2017 8.7 - 11 Mon.
Fri.
EXCO, DAEGU, KOREA

| Spirit ∞ Art ∞ Digital |

り生成さるのだろうか？

我々が想像する通り、デジタルは、ハイテクを伴う現代芸術や芸術教育環境知識を反映している。デジタルの可能性は、教育におけるイデオロギーを大規模な変化を伴って解体し再構築しています。同時にそういったデジタルは、芸術教育における精神的事項に大きな注目を引き起こしています。芸術教育におけるデジタル処理を振り返ると、デジタルはテクノロジー、未来能力、時代の急速な変化への積極的適応などの点から取り扱われています。

しかし、これらの側面は芸術教育への資本主義的アプローチを反映しており、他方で、それは、学生や能力が資本主義ニュアンスの視点から見られていることを意味します。この文脈においては、芸術教育は目的ではなく道具、精神性や人間性でなく資本資源として取り扱われやすいのです。このことを念頭に置くと、デジタルと芸術教育の関係は方法論や技術の問題と言うだけでなく、むしろそれはまた精神性や人間性の問題でもあります。デジタル化された芸術教育は、どんな可能性や問題を引き起こすのか？ 芸術教育はデジタルによってどんな役割をより良く演じることが出来るか？ デジタルにおける精神性は芸術教育の文脈のどこに存在しうるのか？ 「精神」「芸術」「デジタル」と言った用語に魅せられて、共存の物語は、芸術教育の生き残りのために新しい時代精神とキーフォーミュラを定義しています。